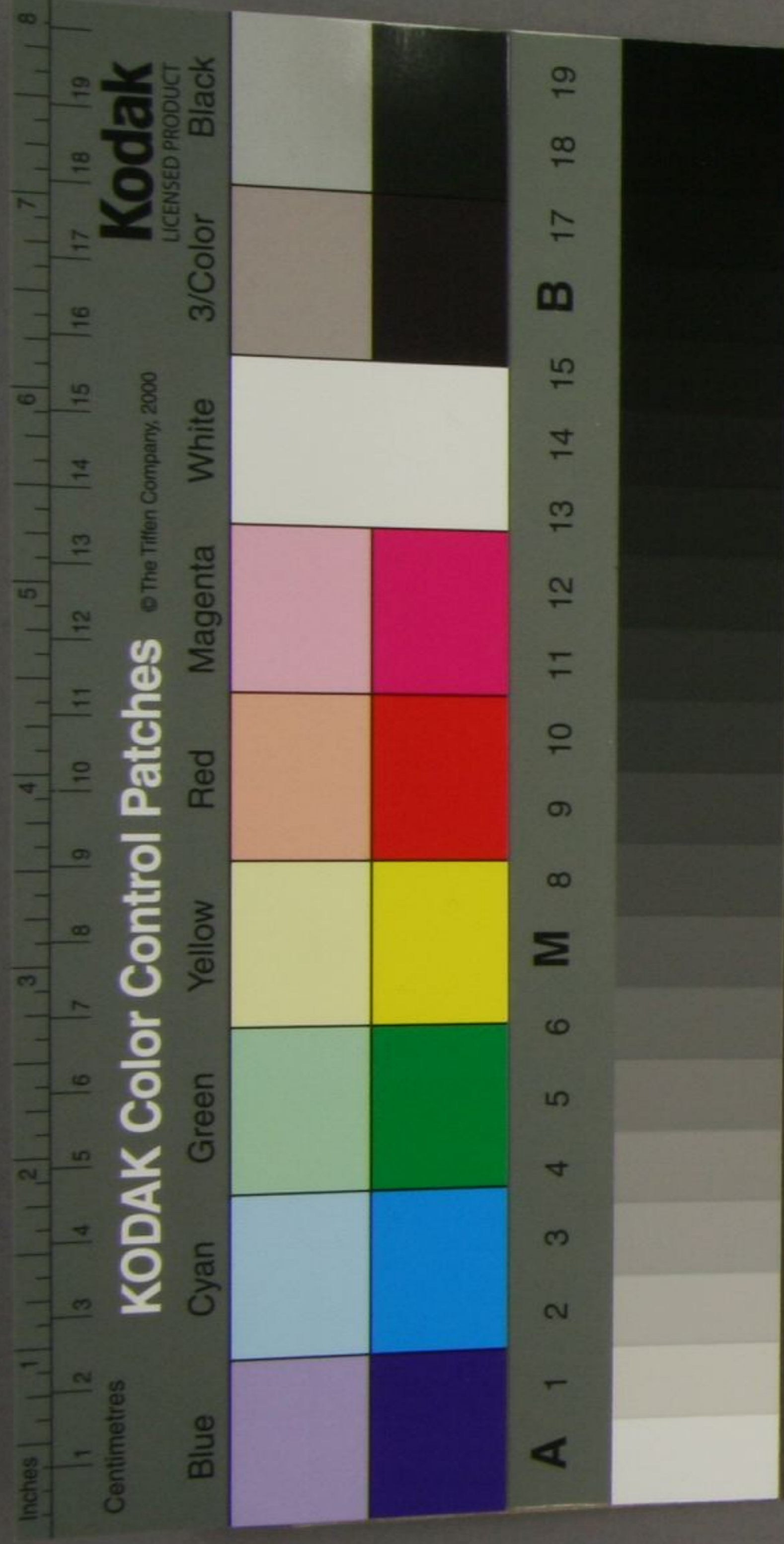




政府及被害民
對三田中正造外公老責任



大正十一年四月
侯爵郵寄贈

政府及被害民ニ對シ
田中正造外同志ノ責任

明治三十一年九月廿六日午後二時四十八分芝
口三丁目旅人宿信濃屋、一室内ニ設ケタル鑛
毒事務所ニ飛電アリ、館林ヨリ至ル曰ク被害民
今出發ス其數一万余人ナリト正造ハ別室ニア
リ會フ此日ハ群馬縣邑樂郡渡瀨村雲龍寺ニ大
集會アルコトヲハ兼テ承知セシモ此出發ノコ
トヲハ豫知セサリナリ而シテ今此ノ報ニ接セリ
後聞ク所ニ依シハ当日、集會者大凡八九千人
ナリシカ會議ハ端ナク一變シテ人負亦遽カニ
一万三千余人トナリ今日午後一同出京スルニ

至ルナリト
二十七日 午前九時五十分飛電又至ル曰、一
余人此地ニ來レリト蓋シ一行中幸手驛ヨリ發
セシモノニ係ル
今一時五十四分又飛電アリ杉戸駅ヨリ至ル
曰一同進行スト
之ヨリ先キ二十六日夜ヨリ二十七日午前ニ
涉リ飛電ノ至ルモ、前後七回所報ノ區々ナル
ヲ以テ遽ニ信シ難シトセリ然ルニ被害民ノ進
行已ニ此所ニ至リ政府ノ警戒防止ニ急ナリト
聞ニ及ンテ正造又默視スル能ハス乃々内務
省ニ至テ情狀ヲ陳一旦無益ノ衝突ヲ避ケ又

濫リニ請願人進行ノ道ヲ妨クルナキヲ望ミタ
リシニ警保課員等亦之ニ同セリ但シ此ノ時内
務省一ノ電報ハ千人ナリト全課員ハ語レリ
今七時二分又飛電アリ越ヶ谷ヨリ至ル報中
露宿云々ノ事アリシカハ大ニ驚キ且ツ痛憂ニ
堪ヘス急ニ越ヶ谷ニ向ヒ出發ノ用意ヲナス此
時事務所員ナルモノ一人モ居ラス即チ二十八
日ノ午前一時栃木縣人須永金三郎山田友次郎
ノ二人ヲ留メテ留守セシノ群馬縣人左部彦次
郎ヲ伴ヒ前々日來ノ病ヲ推シテ請願人一行ノ
進行先ニ向テ途千住ヲ過キ巡查二名ノ橋ヲ衝
ルヲ見ル已ニシテ南足立郡洲江村ニ達ス洲江

村、東京府下ナリ時、鶏鳴三時車夫等空腹耐
一難キヲ訴フ乃々旅舎亀屋ニ投レテ飯ヲ炊カ
シ正造、車夫朝來馳驅奔走今ハ疲レテマタ
歩スル能ハス乃々食后、一憩ヲナサシメ正造
亦其間ヲ以テ病軀ヲ休養ス一睡凡ソ二刻強拂
曉旅舎ヲ發シテ北進シ同村字保水間ニ至ル時
午前六七時、交騎馬、憲兵五騎南スルニ逢
フ蓋シ最初防止ヲ試シシモ力及ハスレテ千住
ニ退却スルモノナラン既ニシテ請願人一群凡
ソ百人余進行シ來ルニ逢フ巡查一人群ニ先キ
達ケテ來ルアリ正造之ヲ我カ傍ニ招キ諭シ
テ我左右ヲ占ラサシメ即々巡查利ヲ通ス千

住警察署詰ニテ竹本有末ト云フ已ニシテ瀏江
村々長坂田庄助來リ刺ヲ通ス蓋シ此地ハ瀏江
村ノ北端ナリ
待フコト暫時ニシテ請願人、一群又踵キ至ル
乃々村長ヲ頼ミテ近傍農家ノ庭園ヲ借ラシメ
請願人ヲシテ之ニ入ラシメ既ニシテ請願人ノ
皆至スルモノ數群農家四五ノ庭園立錫ノ地ナ
ク後シ至ルモノ皆道路ノ西側ニ充塞ス村長坂
田庄助始メ村會議員等斡旋最モ努メ村社氷川
神社ノ境内ヲ借リテ請願人ヲ此ノ大庭ニ集合
セシム其數凡ソ二千四五百人被害人中切齒シ
テ訴フルモノアリ曰吾々カ早川田ヲ發スル時

總數一万余其大半一警吏ノ威嚇ニヨツテ追
歸サレ残り来レルモノモ亦船ヲ奪ハシ橋ヲ擁
セリシ其大半ハ威力ノ為メ制セられ或ハ虐
待酷遇至ニサルナキ為メ遂ニ涙ヲ吞ンテ歸村
セサルノ已ムヲ得サルニ至リ依テ我々一行
ハ道ヲ轉シテ昨夜越々谷付近ニ露宿セシニ憲
兵ノ亡状ナル夜半馬ヲ驅ツテ吾々露臥ノ頭上
ニ闖入リ其蹂躪ニ逢フテ頭軀离散為メ溝壁
ニ陥リ負傷セシモノアリ若シ警吏ノ虐待憲兵
ノ蹂躪ニ逢フナクシハ茲ニ至ルモノ必ラス一
万人ノ上ニ出テタルナラント
既ニシテ喧囂漸々静メ乃々各看ル所ノ叢ヲ

敷テ休息ス此等人負ハ頗ル多數ナル如クナル
トモ鑛毒被害地百數十ヶ村ニ涉ル全体ノ人
アリス此一行ハ洪水ノ氾濫ニ依リ鑛毒ノタメ
ニ家宅ヲ侵害セラレ刻下衣食ニ窮スルモノ及
其付近ノ人々ニシテ渡良瀬附近二十余ヶ町村
中被害激甚地ノ人々ニ過キス然レトモ其廣衰
ハ東西十六七里ニ渉ルヲ以テ被害人互ニ知己
ノ人乏シキ有様ナリシモ各居村ノ被害民等ハ
同舟相隣ノ情ニ依リ雜坐相擁スルモ毫モ喧嘩
セズ謹慎自ヲ持スルノ情真ニ愛スルモノアリ
キ正造乃々村長及巡查一名ヲ伴フテ社頭ニ
上ル社掌ノ神官亦幹旋最モ懇篤ナリ偶々警視

総監官房第二課保安係長谷川守三至リ暫シ
テ陸軍憲兵大尉安田重朝全少尉桐生定政等相
次テ至リ千住警察署長某亦警部一名ヲ随ヘテ
至ル時ニ請願人中再々泣訴ノ声ヲ高メ來ルモ
ノアリ訴ヘテ曰吾々ハ一昨夜未曾テ一睡セサ
ルノミナラス剩一憲兵ノ為メニ蹂躪セラレ殊
ニ埼玉警察官吏ハ請願人ノ飲食ニマテ干渉シ
村長等ニ嚴命シテ炊事用ノ鍋釜マテモ貸與セ
シメス其酷待實ニ悲憤ニ耐エサルモノナリト
泣訴ノ声ハ変シテ憤怒ノ声トナリ四方相呼應
シテ喧囂漸ク其度ヲ高シ此ヨリ先キ正造ハ村
長ニ囑シ白米五俵ヲ購テ食事ノ準備ヲナス

炊爨ヲ始ムルモノ凡七八ヶ所村長村會議員ノ
身ヲ以テ手ツカラ握飯ヲナシタリ正造ハ午二
時請願人ノ后レテ猶未タ至ラサルモノ漸ク此
時ニ至リ來リ會スルモノ陸續多シト忽時機ノ
後ニテ恐ルカ故ニ正造ハ殊更ニ巡查一名
ト軍人大尉少尉二人及警視警察ノ官吏六人ト
土地ノ村長議員等ヲ立會ハシメ言論ヲ記憶ス
ヘシトノ注意ヲ促シ而テ後々社頭ニ立テ大勢
ニ向テ左ノ趣旨ノ演説ヲナシタリ
皆様私シカ田中正造テアリマス知ラヌ御方
ノミナヤウテスカ中ニハ十中ノ一位ハ私ヲ
シル人モアリ然レトモ皆様々大勢出京ノ

理由、正造能ク之ヲ知レリ實ニ本月ノ大洪水ハ又々鑛毒ノ侵害ヲ加ヘ二十九年ノ洪水ヨリハイカラカ水量ハ低クセシ能ハ山岳ノ崩落ト河床ノ埋没トニヨリテ却テ水量ヲ高メ又洪水ノ速達一層急激ニシテ水量相嵩ニ忽々堤塘ヲ没シテ村落ノ鑛毒ノ泥水中ニ没セラレ家屋ハ毒浪ニ漂フテ浮キ流サル、アリ其悲惨想像ノ及ハサル極ニ達シ茲ニ不得已万死ヲ冒シテ出京セシモノナラン一昨年ヨリ昨春ニ涉リ數十ヶ町村長ヲ連署ノ上地方廳ヲ經テ中央当局諸大臣及帝國議會ニモ再度マテ憲法々律ノ保護ヲ與ヘラレ度旨ノ請

願書ヲ奉呈シ其他大小ノ請願陳情書等呈出セシモノ前後相繼キ其種類極メテ多クハハス議會ハ解散ノ數ヲ重テ政府ハ之ニ對シテ何等ノ処分ヲモ為サ、ルヲ以テ請願ノ返答ヲ政府ニ需ムルカ為ニ農商務省內務省ノ門前ニ至リテ返答ヲ得ルマデハ餓死スルモ退カサルトノ決心ヨリ出京セラレタルニ相送リ具衷情ハ真ニ察スルニ餘リアル次方ナリ皆様何故ニ足尾銅山鑛毒被害人ヲ限リ多年間憲法々律ノ保護ナリ所有權ハ犯サレ教育無視セラレ衛生ノ害サレ田園ハ荒ラサレ

渾テノ生業ハ損害ヲ受ケ且ツ停止セラレテ
居ルノテアリマスカ是レ皆人ノ加害ニシテ
現今ノ法律ヲ以テハ如何トモ為ラ得サル
モノナリ例ハ財産ヲ失フテ公権ヲ剝奪セ
ラレ如キ是レナリ通常無毒洪水ノ為ノ荒
地免租トナリ夫ト今時ニ公権ノ消滅スルハ
被害民ト雖トモ能ク信スル知ナリ今蠲毒ノ
夕ノ免租ト今時ニ公権ノ消滅ニ至ルト雖
モ此ヲ存續セシムル法律ナク從テ存續セシ
ムルヲ能ハサルハ現行法律ノ如分トシテハ
尤モナリ然リト雖モ人ノ加害ヨリ財産ヲ
奪ハレ生命モ奪ハレ權利モ剝奪セラルハ

理由ナレ財産回復スレ公権々利存續スレ
レト云フ被害民ノ云フ知又当然ノ理由ナレ
ハ双方ノ主張各確乎タル一理アリテ互ニ衝
突ヲ免カレサル次第ナリ又町村制ノ如キハ
此ノ被害地ノ實力ナリ即チ自治ノ力ナク從
テ公権ノ消滅ニ町村ヲ破壞ニ至リ町村
制ハ為メニ反古トナリテコレヲ執行スル
ハサル法律上名譽權利財産ナキ七滅ノ町村
ニ對シ地方官ハ旧ノ如ク正式ナル町村制ヲ
適用シテ無害地ノ様ニ國家ノ事務ヲ監督シ
已ニ高級ノ職務管掌更ヲ派出シテ無財産ノ
町村ヨリ町村税ヲ徵收セシム而テ其町村

破滅ノ実況ヲ隠蔽シテ鎮毒加害ヲナシ証セ
ントス如此事々物々法律ニ嵌ツラサルハ鎮
毒被害地ノ惨状処分ナリ独リ堤防改修増築
及請願権ニ就テハ今其現行法律アリト雖モ
其他ニ相当ノ法律ナク又鎮業条例等有功ノ
法律ハアレモ政府ハ之ヲ以テ人民保護ノ実
行ヲナササル為メ常ニ衝突ヲ免カレサルナ
リ又其損害ニ至テモ有形無形ノ損害ハ計ル
ヘカラス僅カニ二十九年ノ計算ト三十年ニ於
ケル人民ノ損害ト國家ノ損害トノミヲ合セ
テモ有形上ニ於テ四千万円以上ニ登ル可ク
此他無形ノ損害ハ間接ノ被害ト及ヒ官有林

野池沼河川魚獵禽獸ハ虫類ヲ捕獲ヲ以テ生
業ヲ営ムモノ數千ノ多キニ及ヒタリシニ皆
悉ク其業ヲ廢スルニ至リ且メ衛生ヲ害セラ
レタル為メ怪シム一キ病ノ者ヲ生シ生業ヲ
廢セラレタル為メ貧苦骨ニ徹スルニ至リタ
ル等其數枚拳ニ迫アラズ作併正造ハ社會ノ
秩序ヲ保タシカ為メ諸君ニ圖ラサルヲ得ス
則テ斯ノ多勢入京セラルハ不可ナリ正造
ハ自ラ者シハ所アルニヨリ御止メ申サレ
テ得ス凡此ノ如キ一大國家問題ナリ就テハ
當局ノ責任者ニ勿論國家ノ志士仁人及其他渾
ニ先覺名譽アルモノハ此被害者ニ先テ其

責ヲ負フモノナリ就中政治家、國家、憂ニ
先シテ之ヲ憂フル是レ政治家、本分ナリ
又当局者タルモノ、責任ニ至テト更ニ之ヨ
リ重シ畢竟請願書ノ出ルヲ待テ然ル后云
々スルハ常ノ事ナリ請願ノ出テサルニ先
テ之ヲ処分スルヲ以テ責任ノ至リト云フナ
リ今ヤ諸君ノ慘状ヲ見テ諸君ノ訴ヲ見テ政
府之ヲ救ハス社會亦之ヲ救ハサルハカウサ
ルハ勿論ナレト立法院ノ衆議院モ本年再
度ノ解散改撰トナリ新任ノ議員モ多クアリ
新政府ニ加害被害ノ事情ヲ知ラサル可カラ
サル筈ナレト内閣ノ交迭屢ニシテ農商務大

臣ハ九年間ニ十人ノ交代トナリ實ハ新任
ノ内閣新任ノ役人ナレハ是亦加害ノ激被害
ノ慘ヲ知ルモノ少ナレ被害民ノ不幸ト加害
者ノ幸福トハ大差ヲ生シタルモノアリ又古
顔ノ役人アリトテモ当局者ニアラサルモノ
ハ此被害民ノ慘状十カ一二モ知ルモノナレ
又当局各省責任ヲ分ツモノ數十課アリ實ニ
鑛毒被害問題ハ他ノ普通洪水乃至地震噴火
海啸火災等ノ如キ淡泊ニシテ單純ナル問題
ニアラス又社會モ火災震災等ニ対スルカ如
キ經驗ナリ隨テ同情ナリ今古未曾有ノ問題
ナレト当局者ニアラサル役人ニ如何ニ古顔

、者ト魚氏其実況ヲ知ラサルカ為メ之ヲ如
何トモ為ルモ免ハス
顧ミレハ昨春鑛業停止請願、為ル数千人ノ
被害人出發入京セントセシ昨モ諸君、利根
川ノ橋ヲ撤セラレ寒風肌ヲ裂ク、候迄寒針
ヲ以テ刺ス如キ水中ニ飛込ミテ辛ラタモ自
ラ橋ヲ架シテ渡リ又埼玉縣岩槻ニテハ巡查
数十人ノ突貫ニ逢フテ散乱負傷シ漸ク板橋
宿ニ達セルモノハ六七百名ニ過キスト云フ
ト魚氏此間不馴ノ旅行ト寢食、欠乏ヨリシ
テ帰宅、后病テ死スルモノ、下野、安蘇郡界
村大字高山ノミニテ二人而シテ此死亡者、

孰シモ皆老人ナリ高山ノミニテ二人アリト
スレハ全体ヨリシテ云ハ二三十人ノ病死
者アリシナラント信ス今回モ亦此轍ヲ踏テ
或ハ病臥斃死スルモノ等ナシトモ云ハス若
シ農商務内務ノ門前ニテ死スルヲ得ハソレ
ゾ諸君、満足ナラシモ否ル次第ニモ行カス
レテ歸國后病ヲ發シテ死ニ至ル等アリハ實
ニ残念ノ次力也
國家如此不幸ノ民アルヲ知ラハ官吏及議
員、如キ皆率先決心死ヲ以テ之ヲ救フ一キ
責任、アルモノナリ彼ノ兵役ニ就クモノヲ
看ヨ日清戦争ヲ見テモ知ルハ寒天雪ヲ冒

敵ヲ突テ陣頭ニ死スルモノ多キヲ知ラス
ヤ抑國家ノ為ノ死スルハ兵ノ責任ニア
ラス軍人及ヒ一般ノ官吏モ立法院モ然ルモ
ノナリ兵士ノミヲ以テ國ノ為メニ死スルモ
ノト思フハ大々的誤リナリ

第一正造ハ日本ノ代議士ニシテ亦其加害被
害ノ顛末ヲ知ルモノナリ故ニ衆ニ先ケテ尽
カス一キ一正造カ当然ノ職分ナリ諸君已ニ
非命ニ斃ルヲ見ル正造ハ諸君ノ死ニ先シシ
テ死ヲ決セサハ一カラス然レモ新政府ハ未
タ此慘狀ヲ知ルモノ少キ一前ニ正造カ述一
タニ如クナレハ新政府ノ人々ニ説明シテ被

害ノ慘狀ヲ陳述スル一大必要アリ何トナ
レハ被害民ノ身体疲レ且二昼夜モ寢食ヲ欠
キタルモノヲ迎フルニ兵士ト警吏トヲ以テ
橋ヲ撤シ道ヲ扼シ渡船ヲ奪ツテ渡ル克ハサ
ラレメニ等殆ト竹鎗否北敵ノ襲ヒ来ニ備
フルモノ、如シ之レ誠ニ事實ニ通セズ事態
ヲ解セサルカ為ニシテ全ク誤解ヨリ此残酷
ヲ加ヘタルモノナラン
世ノ中ニ一知ラヌモノ程怖シキモノハナシ
如何ニ奔走シ如何ニ説明シタラオハ此被
害ノ慘狀ト人民苦痛ノ真相ヲ披瀝シテ以テ
能ク願意ノ貫徹スルコトヲ得ルカ是レ正造

等カ同志諸氏ト共ニ新内閣ニ説明、旁ヲ取
リント欲スルノ決心ナリ
今一ツ、現政府ニ憲政ノ政変ニルテ諸君、
地方モ旧自由旧進歩党負ノ少カラサルナリ
ン即チ諸君、中ニ旧自由旧進歩党負モ少
ナカラサルヘケレハ今日ノ政府ハ即チ諸君
ノ政府ナリ又我々ノ政府ナリ我々ノ政府ナ
レハ充分信用アツテ及ハサル処ハ助ケサレ
ヲ得ヌヨツテ我々ハ諸君ニ代リ政府ニ事實
ノ説明ヲ採リ諸君ノ願意徹底ヲ計ルヘシ故
ニ諸君ノ内ヨリ惣代十名以下ヲ残シテ一全
ハ早ク御歸國プラシテ之レ正造等カ只管相

談ニ及、所以ナリ
又御歸國ノ上、新任知事及大小議員郡長町
村長等ニ充分説明セラルサルヘケルハ彼
等ノ過半ハ或事情ニヨリテ加害者ニ加担シ
ツアレハ充分骨ヲ折テ事實ノ真相ヲ告白
シ以テ彼等ノ妄執ヲ打破セサルヘカリス又
専ラ大小局外者ヨリモ全情者ヲ多ク求メ
協力ヲ願ヒ中央ニ於テ万一政府ハ事實ヲ解
スル後々ニ至リテモ尚知今ヲ怠ルアリハ正
造ハソレコソ諸君ニ卒先シテ諸君ヲ介伴シ
テモ出京センノミ
今一ツ、中央政府若シ正造及全志等ノ説明

ヲ用ヒサレハ正造等ハ議會ニ於テ責任ヲ負
問シ亦社會ニ向テ当局者ノ不法ヲ訴ヘシ其
トキ諸君ハ此事ノ通知ヲ得ハ御出京ニ御隨
意ナリ正造ハ再度決シテ御止ノ申スマシ石
ノ膏ニ御止メ申サレハミナラス其時コソ
ハ正造ハ諸君ト共ニ進退スヘシハ夫レマ
テ諸君ハ今日死ヲ決シタル生命ヲ保タレタ
レ之ヲ正造ハ諸君ニ誓フ所諸君希フニ採用
アツテ今回多數ノ入京ヲ止メ速ニ歸國アリ
ルノ様正造ハ嘸ヲ云ヒマセン申シ述ヘタル
通りニ実行イタシマス云々
ト演ヘ終リタリ

請願人等皆靜肅傾聴シ無量ノ感慨禁スル能サ
ルモノアリテ然ルヤ歐欵流涕スルモノ數百人
或ハ声ヲ放テ悲泣憤慨スルモノアリ坐中皆動
テ悲惨ノ情察スルニ余リアリテ正造為ノニ動
カサレツ、坐ニ復セントシ左右ヲ顧ミシハ憲
兵將校下士卒及警部巡查等一人ノ眼中涙ナキ
モノアラサリシ正造此ニ於テカ以為ヘラ軍
吏警官モ亦人ナリ此誠實ニシテ血アリ涙アル
人ナリシテ此憐レハキ被害者ノ行路ヲ妨ケ
剝一之ヲ酷遇虐待ス知ラズ是果シテ何ノ為メソ
道路傳唱スルモノアリ曰ク加害者古河市兵衛
ハ行政官及軍人ヲモ左右ニ使役スルモノナリ

ト正造ハ其何ノ謂タルヲ知ラス惟、ニ上下意
志相通セズ互ニ相誤マラル、ノ致ス所ナラン
演説終ルヤ此時請願人中栃木縣人野口春藏社
頭ニ登リ立テ反對ノ意ヲ述テ曰ク

政府、答弁ヲ得ルマデハ此地ニ留リ一寸モ
動カサルヘシト

群馬縣人亀井明次郎モ亦立テ憲兵ノ暴横ヲ述
一具理由ヲ聽カントセリ

一行中群馬縣邑樂郡大島村関口某ハ涙涙潜々
廊下ヲ叩テ憲兵警官ノ無情ヲ訴フ正造ノ面前
ニ來リ訴ルカ如キモノ多數アリ偶々其面ヲ知
ルモノアルニ其名ヲ知ラス此ノ時憲兵大尉安

田童朝ハ左部彦次郎ニ紹介ヲ乞フテ以テ一行
ニ向テ諸君ノ訴フル如ク憲兵ノ不法若シ事實
ナラハ充分取糾ス一キニ依リ負傷者一十
位ノ屯所ニ來ルヘシト述ヘシヲ野口春藏一行
ノ利害ハ一行ノ責メナレハ一行カント云ヒ
一合ハ大声ニ我々ハ決シテ事實ヲ故造シテ無
キヲ有リトシテ訴ルモノニアラスト喧嘩スル
モノ異口同音又且ツ大尉ハ自ラ非ヲ掩フモノ
ナリト呼籲セリ
此形勢ヲ見ルヤ千住警察署長ハ遽然吐ヲ去ッ
テ歸ル是レ大勢ノ如何トモスル能ハサルモノ
ト判断シテ千住ニ馳セ歸リ全町ノ橋頭ヲ護ル

準備ヲ勤メタルモノナリト云フ已ニシテ各
村ノ重モナルモノ一社頭裏庭ニ會議ヲ開キ衆
議百出ノ后遂ニ正造ノ意ヲ容レ一行中惣代ヲ
撰ミタリ但シ正造ノ十人以下ナルヲ五十人ト
改メタリ
右相談ノ結果大出喜平谷元八等之ヲ報告ス
此時請願人中亦憲兵警吏ノ横暴ヲ訴フルモノ
アリ一々憲兵屯所ニ赴カント喧噪セシモ幸ヒ
免ラレ之ヲ制スルモノアリテ漸ク止ムヲ得タリ
憲兵大尉安田警視總監官房係長谷川等モ厚ク
謝辞ヲ述ベテ引キ揚ケタリ被害人一々一々涙
ヲ飲ミ信フ政府ニ置キ一々善后ヲ約シテ歸國

途ニ就キタリ正造等モ又今朝來今行セシ巡
査及ニ村長議員等ニ謝シテ訣ル歸途千住宿橋
頭ノ邊ニ警官数千百人克ク道路ヲ塞キテ旅人
ノ通行ヲ妨グルヲ勤ムルヲ見テ正造直ニ今所
警察署ニ至リ其無益ノ妨害ヲ解カシメタリ
右ノ次オナレハ警視總監軍人大尉及警察署長
其他ヨリ當時報告及復命ノアリタル等ノモノ
ナレトモ豈計ラシムル來内務大臣次官ヲ始メ公
務ノ多忙ヲ名トシテ總代及正造等ニ兎角面會
ヲ避クルニ依リ大ニ疑團ヲ生セルハ折柄内閣
交渉アリタル次オナレハ余儀ナク當時ノ實況
ヲ略記シテ被害人民ノ慘狀ヲ証明スルモノナ

リ
後ニ聞ク此上京セハ被害民ハ多年鑛毒水害ニ
困窮セルモノニシテ果シテ此上京者ハ数百間
ノ水害ニ止ムナク毒食ヲナシ此旅行中痛ク寝
食ノ欠乏アリシ一昼夜間ニ涉リテ露宿ヲ為
シタル為メニ老体ノ如キハ保木間滞在ナリ
既ニ病トナリ帰郷后倍々病床ニ卧シタルモノ
多シト云フ

又聞ク所ニヨレハ此ノ上京被害民ハ鑛毒稀薄
地ノ被害民ニアラスシテ極メテ激甚ナル被害
村ノ窮民ナリ而シテ此ノ行路ノ途中露宿ニ夜
ニ及ンテ東京ニ達スルノ間寝食ヲ欠キ或ハ妨

害セラレタルハ前陳ノ如シ而シテ此旅行ノ
失費ハ又實ニ驚ク一ノ被害民カ郷里ヲ出立
セル時ハ凡ソ一万三千人ノ多キニ及ヒ此ノ大
費ヲ略計セハ實ニ左ノ如シト

一日一人ニ付三十弍ツ、最下等旅費ニ積ム
モ七千五百圓余途中利根川ノ渡船ヲ喰ヒ止
メラレ夜間僅カニ一路ヲ忍ビテ利根川ヲ渡
リ又夕警吏ノ為メ船ニテ送り歸サレ此ノ困
難ヲ忍ビテ東京府下保木間ト云フ処迄來リ
シモノ略三千余名此ノ行路ハ二日ニシテ保
木間ニ滞留一日トセハ三日ナリ一日一人三
十弍ツトシテ最下等ノ旅費ニ積ムモ此ノ

金二千七百圓歸途、最下等汽車ト見積、一人六十圓此金二千。四十圓入京總代五十名凡十日間滞在金五百圓余合計金一万二千二百四十圓、多額ニ至ル
右、如ク窮困ノ被害民々一時ニ此ノ非常ナル失費ヲナシ、東京府ニ達シ漸ク政府ヲ信シ總代ヲ留メテ歸國セシハ可憐ニシテ穩便ナル良民ナリト謂フベシ然ルニ何、計ラシ政府ハ此ノ良民ヲ愛護スルコトヲナサス却テ總代カ内務省農商務省ニ出頭シ極メテ着實ニ面謁ヲ求メタルニ大臣次官等此ヲ謝絶シ悲慘ノ情ヲ陳スルヲ得カラシメタリ乍明治廿九年以

來呈出シテ諸請願ノ實踐ヲ請フ為ト目下ノ浸水ノ救助ヲ求メン為ニ幾多ノ苦痛ヲ忍ンテ大勢出京シタルモノナレハ如何ニ酷遇サルトモ願意ヲ徹底スル迄ハ實際止ム克ハサル次才ナニ事ヲ左右ニ托シテ面会ヲ峻拒シタリ只僅カニ農商務大臣ニ於テ面謁ヲ許セシニ是亦徒ラニ時日ヲ遷延シ為メニ憂悶ノ情ヲ増サシメタルコト幾何ナルヲ知ラス試ニ思ハ此ノ總代等ハ當時洪水ニ家屋ヲ流亡セラル或ハ壁落ケ棟傾キ氾濫セル毒水ハ未タ其床上ヲ吞サル破屋中ニ愛スニキ家族老幼ヲ殘シテ幸ヲモ出京シタル者ニ非スヤ然ルニ面會期日ヲ

遷延シタルカ爲メ此ノ間郷里ノ老幼旦夕衣食
ニ叫ヲ報類リナリ止ムナク恨ヲ吞シテ
一時帰國セサルヲ得サルモ少カラズ然レニ
此際又悲シム一ニ前内閣ノ令党中ノ軋轢ニ忙
シク此ノ被害民ノ慘情ヲ顧ルモノナシ如斯
廿九年以來内閣ノ屢々交迭アル毎ニ山林ノ盜
伐濫伐時ヲ選ハス被害民ニ此無政府ノ様ノ境
遇ニ挾リ益々死地ニ沈淪シテ空シク歲月ヲ送
ル山林ノ濫伐絶ルトナラ山岳倍々荒亡崩落
シ洪水ノ水量旧日ニ數倍シツ、アルモ被害民
等ハ毫モ爲メ知ラズ或ハ兵馬ヲ以テ屢々
請願ノ道路ヲ妨ケラレ或ハ警吏ノ爲メ罪ナク

シテ永ク獄裡ニ呻吟セルヲ等酷遇ニ酷
遇ヲ重ネ乱暴ニ乱暴ヲ繼續セラレ今亦一時ニ
多額ノ失費ヲ致シ或ハ家財ノ紛乱損傷アリ其
ノ悲慘ノ種目數ヘ來レハ筆舌ノ尽メ能ハサレ
狀情ナリ割ヘ數百人ノ疾病患者ヲ生シタルハ
此ノ請願ノ行路中皆ナ官吏ノ虐待ニ苦シメ
レタルヨリ原因シタルモノトセハ此レ憲法々
律ノ保護ヲ爲サルノ極ニシテ寧ロ政府ハ此
ノ被害民ノ生命ヲ奪フモノナリ實ニ無殘酷薄
ノ至リト云フ一レ被害民ハ今ヤ資ヲ投シテ請
願ノ爲メ奔走スル克ハス悲痛ニ悲痛ヲ重ネ其
極ヤ或ハ怖ル終ニ父母妻子ヲ攀ケテ官衙法廷

泣訴スルノ止ムナキニ至ルヲアラシメ然レ
氏正造等ニ再ヒ此ニ對シテ慰諭スルノ道ナキ
ハミナリト却テ其泣訴ニ同情ヲ表シテ止マサ
ル者ナリ政府ト至ル所ハ無情ノ如ク再三
ル者ニ非リ一ニ現政府ハ果シテ此ヲ以テ
如何トス
尚上京者當時ノ実状ヲ探索シタルニ實ニ左ノ
如キモノアリ記述中或ハ重複ニ亘ル個所ナキ
ニ非ルモ其正確ナリシヲ欲スルカ爲メ今茲ニ
詳叙スルコトナレム

九月廿七日午後七時頃請願上京者中先手ノ者
埼玉縣南埼玉郡櫻井村ニ達ス時廳テ黄昏ニ際

〔電話新橋二三一七〕〔京橋區加賀町〕〔協信舎印行〕

セシヲ以テ豫テ用意ノ割麦ヲ炊キテ夕飯ニ充
テシト欲シ二三ノ總代ハ全村々長(深野常三郎
氏)ヲ訪フテ炊具ノ貸与ヲ乞ヒニ許サレズ互
戾リテハ更ニ再三至リテ懇望スレモ固ク拒シ
テ應セズ終ニ其門ヲ鎖シテ入ラシメ村長
ニ此ノ如ク此ノ附近ノ民家ニ就キテ永
ルモ容易ニ受諾スルモノナキヤ知ルニ漸
シテ夜十時頃追テ間ニ於テ左ノ三ヶ村ノ篤志
家ニ就キ食物丈一之ヲ炊クヲ得タリト至ル素
ト数千ノ者悉ク之ニ満足ヲ与フコトヲ得シ
ヤ中ニ夕飯ヲ喰ハサルモノモ多クナリ而シ
テ右一行ノ者或ハ其擔下ヲ借り納屋ヲ借り

苞蓆ヲキテ臥スルアリ或ハ路傍ノ樹ノ下ニ菰
毛布ヲ敷キテ臥スルアリ今夜ハ生憎天晴シテ
露多ク半夜衣服ハ濡レテ滴ルニ至リ寒カ肌ニ
徹シテ眠ルヲ得カリキ
歸御后登熟或ハ下痢症ニ罹リシモノ其十分ノ
二三ニ居ル是レ蓋シ飲食ヲ常ヲ得カルト西三
夜ノ野宿ニ湿氣ヲ受ケシモノナリ今夜炊
具ヲ貸與シ或ハ家屋ノ一隅又一納屋等ヲ貸シ
上京者ヲ憩ハシメシ篤志者左ノ如シ
南埼玉郡武里村大字大場
小暮吉藏 外未詳
今郡櫻井村大字大里

中村喜八 今田友吉 中村半藏 深野権左
工門 宇田多左工門 永野新五郎
永野久次郎 藤井清次郎 荒井伝三
今村大字下ツリ
金子勘太郎 高橋清次郎 外未詳
今郡大袋村大字大里
黒田権藏
今村大字大林
瀬尾悟太郎 岩瀬彦太郎 岩瀬喜八
飯山平十郎 會田藤五郎 會田傳五郎
會田八五郎 原田金次郎 瀬尾子之吉
瀬尾常吉 瀬尾平次郎 上原彦四郎

野沢辰五郎

一行中ニ食ヲ炊カシニ携帶ノ品既ニ尽キタ
ルモノアリ鍋釜ヲ借ルト共ニ併セテ之ヲ求メ
買フモノアリ或ハ家ニテハ其代價ノ半額ヲ受
テ残額ヲハ之ヲ惠シ而シテ人ノ問フアヲハ其
全額ヲ托セタリト謂ハレシヲ望マレタリ此
レ蓋シ陰德ニ出ルモノカ將タ或ハ他ニ蟠ル事
情アリテ然ルカ櫻井村ニテ炊具ノ得難キ為メ
夜ニ及ンテ大沢及越ヶ谷ニ至リタハモノアリ
上京者一行多クハ昼夜兼行兩日ニ涉リ夜ハ屋
外ニ露ニ曝サレ飢ヲ忍ビ寒ヲ凌キテ此ニ至
ル為メハ疲勞者アリ或ハ病人トナレハアリ此

等ノ者ハ同志ノ懷ヲ寄セテ此ノ二駅ノ旅店
ニ宿セシメシト欲シ行キテ之ヲ求メシニ此時
既ニ旅店ニ巡查憲兵ノ專占スル所トナリ数多
キ二駅ノ旅店ニシテ上京者ニ愛ヲ割キ病者ノ
一人ヲモ慰ハシムモノナキニ至テハ殆シト
無情ノ極寛ヘス涙潜タトシテ禁スル克ハカリ
キ此等ノ者ハ止ムナク此処ヲ去テ越ヶ谷駅ノ
南外レ字瓦曾根ニ至リ街道ノ東ナル觀音堂ノ
境内ニ樹木アリ田圃ニ溝渠ヲ以テス此処ニ到
リ憩フモノ百數十人皆病者疲勞者ナリ然ルニ
因リサリキ深夜憲兵人数少ナキヲ見カケテ又
茲ニ来リ已レ等歸レ歸レト乘馬ヲ以テ縦横ニ

駢々廻り暴虐ヲ極ム衆為ノ一將キ或ハ溝渠ニ
落ルアリ或ハ馬ニ踏マレアリ其残虐能ク筆
舌ノ尽ス所ニアラス堂ノ西ニ當リ少シク高シ
テ旅店アリ俗ニ桶入ト呼ブ此ノ疲カレシ者
深夜路傍ニ横卧シ居ルヲ見テ憐シトナ思ヘン
裏庭ニ席ヲ敷キテ休マシム憲兵亦店頭ニ来リ
被害民カ居タラ出セト迫リ夕リ右ノ上京
者ハ其残虐ニ居堪マラス夜ヲ破ツテ出京ス九
月廿八日午前八時頃上京者先手ノ者ハ東京府
下南足立郡洲江村大字保木間ニ於テ千住ヲ去
ル畧一里ノ処東京ヨリ代議士田中正造氏巡查
一名ヲ随ヘ来レシ二邂逅ニ代議士ハ上京者一

同ニ聞カシムヘキナリ強テ一行ラレテ此
ニ止ラレシム
全村々長坂田正助氏其他有志者等ハ斡旋ニ依
リ全村天満社境内其他数ヶ所ヲ以テ上京者ノ
休息所ニ供ス代議士ハ是後シノ者大抵揃ヒ夕
リト聞キ更ニ一同ヲ天満社ノ境内ニ集メ午后
〇時三十分頃代議士ハ後ニ駢々加ハリ夕ニ
憲兵將校及警部等ヲ立会シメ社頭ニ起テ縷
々長時間ノ説諭ヲナシ總代ヲ選ビテ上京セシ
メ他ハ皆歸ルヘキヲ以テス上京者一同ハ憲兵
等余リノ虐待ニ憤激一方、ラハ容易ニ聞クヘ
キノ色モ見ヘカリシカ午后四時半頃迄ニ漸ク

協議成リ左記ノ者總代ニ選コレ上京スル
・決シ其他一同帰途ニ就ケリ
栃木縣安蘇郡植野村
谷 元八 谷 房吉 新井準次郎
界 村
野口春藏
大伏町
須藤亀吉 小曾根信吉 石井郡三郎
熊倉慶三郎 藤浦貞藏
足利郡久野村
稻村興市 室田忠七
吾妻村

〔電話新橋〕三一七〔京橋區加賀町〕〔協信舎印行〕

庭田恒吉 寺島伊勢松
筑波村
坂本與三郎 中村庸四郎
毛野村
須永豊作 岩崎佐十 上武幸十郎
小野寺兵次郎
葉鹿村
荒山仲次郎
山前村
増田関吉
群馬縣邑樂郡大島村
大出喜平 青木金次郎 山本栄四郎

渡良瀬村

木村勇吉

多々良村

福田和壽藏

永沼政吉

田入利三郎

大筒野村

小島京藏

有藤弥市

川田栄吉

飯島新太郎

海老瀬村

市沢萬平

針谷佐吉

松本英一

伊奈良村

高際善十郎

高際清吉

赤羽村

坂村徳次郎

渡辺弁藏

西谷田村

北山清次郎

野中彦四郎

長谷具弥十郎

郷谷村

越沢丑次郎

坂村久次郎

山田郡桐生町

水野茂吉

毛里田村

中島安太郎

埼玉縣北埼玉郡利島村

石川一

川邊村

井田兵吉

田口直吉

増田弥太郎

栃木縣下都賀郡谷中村

茂呂近助

外住所不詳

櫛田元三郎 福田貞藏

而シテ右總代等モ一家ヲ毒水ノ裡ニ残シ置キ
タルニ依リ永ク滯京シテ請願事務ニ奔走スル
ヲ得ス兩三名ヲ残シテ不本意ナカラズ返一サ
サレヲ得サレ、哀情洵ニ憐ム一ナ極ハミト謂
フ一ニ又九月三十日東京府南足立郡長千石
作ト全郡刈江村々長坂田正助氏論談、一端ヲ
記セシニ九月三十日刈江村々長坂田氏南足立
郡町村長會議ニ列ス折柄他町村長、坂田氏ニ

対シ皆夫々ニ前々日上京者ニ對スルノ勞ヲ謝
セリタリ独リ郡長ニ村長坂田氏ニ向ヒ何故
ニ上京者ノ為メ、斡旋セシヤト其理由ヲ問ヒ
且ツ其処置ヲ詰ル村長坂田氏ニ代議士田中正
造ヨリ憲兵警察官等立会フテ、頼ミナリシ故
時宜、然ラサレヲ得サル旨ヲ弁疏ス
郡長語勢ヲ強メ何故拒絶サレサリシヤト云フ
村長拒絶シナケレハナラヌト云フ理由ヲ及問
ス郡長若シ失策ニナッタラハ本郡一般ノ面
目ヲ汚ス次弟ユ一其様ノ事カアルニナセ通報
シナイノテスト村長其様ナ事ニ迄御差因ハイ
リマスマイ私ハ私シ一巳ノ料簡テ取計ラツタ

ノテスカラ及令間違カ出来テ死ニ至ルモ悔ヒ
マセヌ郡長何ニモ人ノ為ニ死ヌコトアルマイ
ト冷罵村長ヲ辱ム村長貴下ノ行政上ノ職權ヲ
以テ其様ノ事ヲ云フカ或ハ誰カハ差因テ云
フノテスカト郡長ウ細カニナレハ此所テハ
谷井セマカラ郡役所ニ来ル一ニ村長私ノ方カ
ラ郡役所迄行ッテ聞ク必要アリマセ又云々
ト以上ニ郡長ト村長トノ間ニ於ケル一場ノ議
論ニ過キスト虽氏亦以テ當時実況ノ一端ヲ窺
フニ足ル一ニ

明治三十一年十一月 日奉呈

〔電話新橋一三二七〕京橋區加賀町〔協信金印行〕

本問題ハ多年ニ亘ル國家問題ニシテ前届ハ本
年九月廿六廿七廿八三日間ノ出来事ニシテ前
内閣ニモ奉呈致シ置矣得共猶茲ニ奉呈仕矣
明治三十一年十二月五日

栃木縣安蘇郡旗川村

田中正造

電話新橋一三二七京橋區加賀町二一協信舎印行

〔電話新橋二三一七〕京橋區加賀町〔協信舎印行〕

